

## ナポレオン年譜

年譜の項目については、下記サイトを参照した：「ナポレオン人物年表」

<https://www.youce.co.jp/personal/world/France/napoleon-bonaparte.html>

利用させてもらって悪口を言うのも何だが、ナポレオン個人については詳しいのに、フランス革命中のロベスピエールによる恐怖政治、ルイ16世の処刑など、背景にある大事件が無視されている。不肖小林の歴史観とは相いれないので、加筆修正した。

追加事項については、下記を利用：

ウィキペディア項目「ナポレオン・ボナパルト」など (非常に便利)

山川出版社「世界歴史大系」中の『フランス史』三巻本 (5877円×3)

そこまで投資する気にはなれない方のために：『フランス史10講』(岩波新書)

以下の年表に、自分で興味のある事項を付け加えたい方はお知らせ下さい。Apple のワープロソフト Pages によるファイルをお送りします。もしかしたら、ワードで読めるかも...

ついでに小林作成の年表もご覧下さい：

「時の流れが実感できる歴史年表」

<http://sksrg.blog82.fc2.com/blog-entry-3.html>

## ナポレオン年譜

1768 ジェノヴァ共和国の領土だったコルシカ島が、フランス領となる

(まるで、ナポレオンがフランスに生まれるために仕組んだかの如きタイミング、歴史の偶然とは恐ろしい！などと勝手に悦に入っただが、ウィキペディアの記事によるともっと複雑：

1729年、かつてなく大規模かつ組織的なコルシカ独立戦争が起き、ジェノヴァはこれを抑えられない。1768年、フランスがコルシカに派兵する代りにジェノヴァは一定期間コルシカ統治権をフランスに譲るという内容の、ヴェルサイユ条約を締結。

一方コルシカはそれ以前の1755年、独立運動の指導者パスカル・パオリを首班とする独立政府を樹立し、国歌や国旗、憲法、通貨や大学、徴兵制など近代国家の原型ともいえる制度も創出していった。

フランス軍とコルシカ軍との間で戦争が始まると(1768～1769)、1768年10月のボルゴの戦いではバスティア南郊でコルシカ軍はフランス軍を駆逐。1769年5月のポンテ・ノーウの戦いでは、フランス軍の圧倒的兵力の前にコルシカ軍が敗れ去り、パオリは英国に亡命。コルシカ島は完全にフランス領になった。ナポレオンが生を享けるのは、この戦役から3か月後のこと)

1769 コルシカ島アジャクシオで生まれる

1770 王太子ルイ、オーストリア皇女マリ・アントワネットと結婚

1774 王太子、ルイ16世として即位

1777 ラ・ファイエット、義勇軍を組織してアメリカ独立戦争に参加

1779 陸軍幼年学校に入学

1783 ベルサイユ条約：アメリカ合衆国の独立承認

1784 パリの陸軍士官学校・砲兵科に入学

1785 砲兵士官として任官

1789 国民議会創設 (Assemblée nationale 現在の下院議会)

パリの民衆がバスチーユ監獄を襲撃 (以下はウィキペディアによる)

バスティーユは以前から専制政治の象徴として悪評の高い存在であったが、この時点では群衆にバスティーユを襲う積りは無く、目的はあくまで自衛のために弾薬を手に入れることであった。襲撃時点のバスティーユは殆ど空の状態で、民衆が考えていたような政治犯はおらず、治安を乱した廉で収容された7人の老人のみ。Sで名高いサド侯爵が10日前まで収容されていた。

「人間および市民の権利の宣言」(いわゆる人権宣言)

1792 アジャクシオの国民衛兵隊中佐に選ばれるが、親仏派の一家は親英派に追放される船で脱出しマルセイユに移住

国民公会開催、王制廃止と共和制を宣言 (第一共和制～1804まで)

1793 ルイ16世処刑

恐怖政治始まる (一年弱の間に約4万人処刑さる)

マリ・アントワネット処刑

反革命軍及び外国艦隊への大砲作戦が成功、准将へ昇進し一躍フランス軍の英雄となる

1794 クーデタでロベスピエールが処刑され、恐怖政治終る

1795 王党派によるヴァンデミエールの反乱を鎮圧し、将軍に昇進

1796 ジョゼフィーヌ・ド・ボアルネと結婚、イタリア方面軍司令官に就任

(ジョゼフィーヌはかなり男出入りの激しい女性だったらしい)

イタリア遠征 (スタンダール『パルムの僧院』のストーリーはこの時点から始まる)

1797 イタリア北部に広大な領土を獲得後、パリに帰還し熱狂的な歓迎をもって迎えられる

1798 ナポレオン軍エジプトに上陸、ピラミッドの戦いで勝利しカイロに入城

イギリス主導で第二次対仏大同盟が結成され、フランス本国が危機に陥る

1799 エジプトから帰国しクーデタで統領政府を樹立、第一統領となる

1800 マレンゴの戦いでオーストリア軍に劇的勝利

1802 憲法改定で自らを終身統領と規定

1803 植民地サン・ドマングでフランス軍が大敗

1804 ハイチ革命でサン・ドマングがハイチ共和国として独立

フランス民法典 (ナポレオン法典) を公布

皇帝に即位：ナポレオン一世 (第一帝政～1815)

1805 イギリスがオーストリア・ロシアなどと第三次対仏大同盟を結成

トラファルガーの海戦でイギリス海軍に完敗

アウステルリッツの戦い：オーストリア・ロシア連合軍に大勝

1806 イエナの戦い、アウエルシュタットの戦いでプロイセン軍に大勝しベルリンを占領

イギリスへの対抗策として大陸封鎖令を出す

1808 スペイン独立戦争が勃発

スペイン・ゲリラ連合軍にフランス軍が降伏

1810 皇后ジョゼフィーヌと離別、オーストリア皇女マリ・ルイーズと再婚

1811 王子ナポレオン2世が誕生、ローマ王の地位に就く

1812 ロシア遠征を決行するが、冬将軍にも阻まれ大敗を喫する

1813 ライプツィヒの戦い：プロイセン・オーストリア・ロシアの対仏同盟軍に大敗

1814 対仏同盟軍がパリに入城。

コルシカ島とイタリア本土の間にあるエルバ島に配流

ウィーン会議、ナポレオン皇帝の後継にブルボン家 (王政復古：1830年の7月革命まで)

スタンダール『赤と黒』(1830) は恋愛小説とされているが、主人公ジュリアン・ソ

レルの物語を通じて王政復古下のフランスを描いた、政治社会小説である。

(新潮社『新潮世界文学辞典』)

- 1815 エルバ島を脱出し復位、自由主義的な新憲法を発布、  
ワールテローの戦いで完敗 (百日天下)  
アメリカへの亡命を断念しイギリス軍艦に投降、南太平洋の孤島セントヘレナに幽閉  
1821 死去

- 1830 仏軍、アルジェリアに遠征、アルジェを占領  
7月革命、7月王政の成立 (～1848まで)

バルザックの小説群『人間喜劇』は、主として1830年代から50年代のフランス社会を描いたとされる。

- 1848 二月革命により第二共和制 (～1852)  
男だけに限った普通選挙制度を導入 (女性に広げられたのは第二次大戦後の1945年)  
ナポレオン一世の甥ルイ・ナポレオンが大統領に選出される  
1851 ルイ・ナポレオン大統領が自らクーデタを実行

第二帝政 (le Second Empire : 1852～1870)

ゾラの小説はほぼこの時期を描いたとされる。

- 1852 人民投票により帝政が復活、ルイ・ナポレオンが皇帝ナポレオン三世に  
セーヌ県知事オスマン男爵によるパリ大改造始まる  
1854 Dogme de l'immaculée conception 聖母マリアの無原罪の御宿り  
(「処女マリア自身が、母親による懐胎の最初の瞬間において、原罪のすべての汚れから前もって保護されていた」との教義。イエスの処女懐胎に劣らぬ過激な考えが、この時代になってカトリックの公式教義に盛り込まれたのは、驚異的...)  
1857 ボードレール『悪の華』、フロベール『ボヴァリー夫人』  
1870 プロイセン宰相ビスマルクの策略で、対プロイセン宣戦布告に追い込まれる  
最後は皇帝自身が捕虜となり、帝政崩壊  
パリ・コミュン

第三共和制 (1871～1940)

第四共和制 (1946～1958)

第五共和制 (1958～現在に至る)